
- The Past -

珠城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The Past

【Nコード】

N9264B

【作者名】

珠城

【あらすじ】

珠城が実際に経験した過去の話。純粋な恋から珠城の今までの変わり果てた姿を描くストーリー。 ゆっくり作成中です。御了承ください。

・ プロローグ

今まで生きてきた17年間。

貴方と出会ってからの日々は
私の中で鮮明に残される。

本気で人を好きになり
私の初恋となった人。

そして私自身を狂わせたのは
貴方と出会ったからなのかもしれない…。

・ The Past

そう。私の過去。

この小説は珠城が経験した
ノンフィクションの話です。

「第一章 彼と私」

中学1年になった頃

私はある人に初恋をした。

私の名前は

『珠城 蘭』

>タマキ ラン<

体を動かす事が大好きで

ソフトボール部に所属していた。

夏休みに入ってから

試合が多くなり

先輩達最後の総合体育大会が行われた。

この試合で先輩達は引退。

先輩達がいなくなると思うと、すごく淋しかった。

そう。この日だった。

試合が終わった後

部活の顧問の先生が

私と彼を呼んだ。

「おい珠城！」

『なんですか？』

「お前今から細川に バントを教われ。」

(…へ？意味わからん。)

ぽかんとしてる私に、彼は

「珠城だよな？まあ頑張ろうぜ。」

そう言われてバットを渡された。

バントの意味がわからない人は
野球知ってる人に聞けばわかります。

「あ…。はい！」

私はそう返事をして

細川先輩と練習をはじめたのだった。

私と彼の出会いは

ここから幕を開けた。

細川 清貴先輩

> ホソカワ キヨタカ<

私の2つ年上の中学3年で

細川先輩の妹がソフトボール部の2年生にいた。

なのでこの日は試合に出る妹のために、応援に来ていたのだった。

細川先輩は野球部に所属していた。

その上、選抜に選ばれるほど上手かった。

噂には聞いていたが

この日初めて直接顔を合わせたので、もの凄く緊張した。

細川先輩の特徴は

目が大きくて

笑うと笑窪>エクボく

が可愛くて

体は筋肉質で焼けている。

さわやか系でかつこよかった。

先輩の中でも

結構モテていたらしい。

まあ聞いた話によると

なにもかもが完璧な人。

歌は上手いし、頭もいい。

運動神経抜群で、友達も多い。

私には全く縁のない人だった。

出会い

忙しい夏休みも空けて、学校が始まった。

私の中学校は家から2K m距離があつて、歩くと30分近くかかる。

私が1年生の時は、あまり携帯を持っている人が少なかった。

親も厳しかったため、私も持っていなかったが、帰りが遅くなると心配だから。と言う理由でプリペイド携帯だけは持たせてもらっていた。

始業式が始まつて数日経った頃、部活で疲れてベットに横になつていた。

普段あまりプリペは使っていなかった。

電話もメールも料金が高かったからだ。

すると夜9時ぐらいになつて、珍しく着信音が鳴った。

（知らない番号…？誰だ？）

疑問に思いながら電話に出る。

私はいつも強気なタイプで、何に対しても上等切っていた。

なので知らない番号だろうが関係なく出る。

「もしもし？誰…？」

『あ…。珠城？俺だけどわかる？』

（へ…？誰だし。）

そんな事を考え黙っていた。

「細川だよ。わかるべ？」

（細川先輩か。ってえー？（。・））

『あ…はい！こんばんわ！ってか何で番号知ってるんですか？笑』

「あー！阿部に聞いたんだよ。勝手に聞いて、電話してごめんな？」

阿部とは私の友達。

同じソフト部の子だった。

（いつのまに連絡交換したんだ？笑）

『いや！大丈夫ですよ 何か用事ですか？』

「いやー。ただ話たかっただけなんだけどね。笑」

そんな事言った先輩がなんだから可愛らしかった。

この日から私と細川先輩との関わりが始まったのだった。

蘭本人は全く何も思っていなかったが…。苦笑

電話

それから蘭と細川先輩は
毎日のように電話をした。

蘭は自然と清貴先輩と呼ぶようになった。
清貴先輩もいつのまにか
蘭と呼んでくれた。

電話越しでA M 1 1 : 0 0 一緒に歌ったり、清貴先輩があゆの曲が
好きだからよく流してたっけ……。

いろんな話をした。

毎日何時間も。

部活の話や学校の話。

好きなアーティストとか音楽とか。

清貴先輩は3 B L A B ・ とか、あゆとかが好きだった。

いつのまにか蘭はO T A Y A に行つてC D 借りて清貴先輩が好きな
物に夢中になっていた。

とくに3 B の “ プレゼント ” “ 星の砂 ” は2人との思い出の曲。

毎日電話をしても話が尽きる事はなかった。

学校ではあまり会えなかったので、この時間だけが唯一、清貴先輩と蘭の時間。

私は好きだったんじゃない。

先輩として仲がよかっただけ。

清貴先輩は優しい人だから、私以外のソフト部の子とも連絡を取っていたから。

だから私だけは特別だなんて思ってもいなかった。

ある日蘭は同じソフトの友達のユキと話をしていた。

その話とは清貴先輩の事だった。

内容は清貴先輩が好きだと言う事。

蘭が清貴先輩と仲がいいから協力してほしいと言う事だった。

蘭は迷わず返事をした。

『協力するよ!』と。

蘭はこの後、この言葉のせいで後悔するなんて思ってもみなかった…。

数日後、中学初めての運動会。

蘭はこの日を楽しみにしていた。

なぜなら学校生活の中では、学年が違ふ清貴先輩の事をあまり見れないからだ。

部活などは見ていたがそれとはまた違ふ。

それに清貴先輩は、リレーの選手。

応援をたくさんしようと心に決めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9264b/>

- The Past -

2011年1月9日04時28分発行